

Title	シトロエン中央アジア派遣團に就て
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.1 (1933. 4) ,p.14- 14
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330400-0014

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

シトロエン中央アジア派遣團に就て

一九三一年四月四日にペイルートを出發し、翌年二月十二日に北京に到着したミッション・シトロエン・サントルアジイ Mission Citroën Centre Asie (シトロエン中亞派遣團)の壯圖は、事既に舊聞に屬するが幸ひ同ミッションに考古部長を擔任してアッカソ博士がアフガニスタンのギリシク以來行を共にし、北京で一行と別れてから東京に來られ、再び日佛會館學長として爾來二箇年各處で講演をされたので、吾々はその成果の片鱗を窺ふことが出來たのは愉快である。即ち氏は同旅行の印象を昭和七年四月十五日日佛會館、五月四日アテネ・フランセ六月十五日關西日佛學館、十二月五日佛國大使館、十二月十五日橫濱佛國領事館に於て幻燈を利用して説明され、また中央アジア藝術とアフガニスタンのそれとの關係に就ては、五月二十七日、五月三十一日東京帝大、六月十三・十四日京都大學、十月十五・十六日京城大學に於てなした「Bamiyan (アフガニスタン)の佛敎藝術と其中央亞細亞との關係」の講演に於て論述される所あつたが、昭和八年二月六日日佛會館講演「中央亞細亞の考古學的探究、シトロエン中亞探檢派遣隊」では大體中亞考古調査の豫察的報告をなし、極めて興味ある略述を與へられた。庫車附近の遺物は、支那側の干涉が甚しく調査に寫眞もノートも許されなかつたので多數の資料の存するのを見て空しく引き上げざるを得なかつたがトゥルファン附近では支那側の監視も緩くなり、自由に調査し記録することが出來たそうである。氏は、マニ教壁畫の一群を後者で發見されたことを得意としてゐられた。此豫察報告を氏は先づフランスの通俗雜誌に出しついで正式な報告を出版されるそうである。派遣團そのものの旅行記は參加員 Le Fevre 氏の映畫物語の様な紀行が Illustration 一九三一年二月二十八日、五月三十日、八月八日、九月廿六日、十二月廿六日、三二年一月廿三日、三月廿六日、四月三十日、六月十八日、七月卅日、八月廿七日の各號に鮮明な寫眞と共に掲載されてをるし、同じくアメリカ地學協會を代表して參加した Williams 氏の紀行が the National Geographic Magazine, June, 1931, October, 1931, March, 1932, November, 1932 の各號に出で居る。此行の行はれる以前にシトロエン會社は Mission Citroën Centre-Asie と云ふ小冊子を公刊して旅行の企畫を説明する所あつたがそれに添へてバウル・ペリオ氏が La Haute Asie と云ふ三十七頁の小冊子に中央アジアの歴史を要略して述べられたのは吾人に多大の便益を供する。なほ一行の撮影したトーカー「クロアジェル・ジオーム」は今春巴里で封切られるそうである。アッカソ氏は、出發間近の本年二月四日東京地學協會の爲に「シトロエン中亞派遣團と行を共にして(アフガニスタン・カシミア・新疆省)」と云ふ題で、是等の地方の人類・風土を説明し、その横斷の困難、機械力によつて往古の「絹の貿易路」を征服したと云ふ點に於て此旅行が如何に人類文化史の上に貢獻したかに就て略述された。その講演要領は同協會の雜誌に掲載される筈である。(松本信廣)